

第2 多目的教室

授業の趣旨
自分のことをより知ってもらうために、伝える内容を修正しながら、自己紹介スピーチを作りあげていくことを目指す授業。

1 単元名 This is me! (『Here We Go ⑥』Unit 1)

2 単元の目標

自分のことを知ってもらったり相手のことをより分かったりするために、出身地や得意なことなど、自己紹介に関することについて具体的な情報を聞き取ったり、伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自己紹介に関することについて、例文を参考に、音声で充分慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

3 目指す子供を育てるために

(1) 子どもの実態

- ・明るく活発な児童が多く、意欲的に学習に取り組むが、英語や既習事項を使用することに意識が向き、他者へ配慮したコミュニケーションをするまでには至っていない。
- ・母語でも話すことに苦手意識があり発話につながらない児童、自分の考えをもつことができない児童がいる。
- ・じっくり考えたり他者と交流したりしながら自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。

(2) 単元で育てたい資質・能力

表現方法や表現内容を修正しながらよりよいものを作りあげていこうとする態度。

(3) 教材について

- ・児童は、これまで好きなものや欲しいものを伝えたりしながら自己紹介をする経験をしている。6年生では、既習に新出表現を加えて学級の仲間に自己紹介する活動を設定し、4～5文程度の自己紹介ができるようにすることを目指す。その際、コミュニケーションに必要感をもたせるために、学級の仲間をより深く知ることを目的とし、自分の意外な一面を知らせることを条件に加える。
- ・新出表現は、出身地を伝える I'm from～. 得意なことを伝える I'm good at～. である。自己紹介をする目的・場面・状況に応じてこれらの表現を自分の自己紹介に加えることができるようにする。

(4) 手立て

- ・レベルアップの仕方について具体的にイメージさせる場面
- ・レベルアップのポイントをもとに改善点を考え、自己紹介メモを修正する場面

(5) 単元で目指す子どもの姿

自分が伝えたい情報を相手にわかりやすく伝えようと工夫したり、相手の言いたいことを理解しようとしたりする児童

主に働かせる見方・考え方の表現内容を修正していくための自己の改善点を見出し、複数の事柄を関連付けてスピーチを構成すること。

4 単元構想図及び単元計画

関連する領域別目標
 [聞くこと]
 イ ゆっくりとはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
 [話すこと(発表)]
 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
 [書くこと]
 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で充分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

Let's Try1! Unit1 Hello!(3年生)

○挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。

【言語材料】
 ・ Hello. Hi. I'm (Hinata).
 Good bye. See you.

Let's Try2! Unit1 Hello, world! (4年生)

○相手に伝わるように工夫しながら、挨拶をし、自分の好みなどを伝え合う。

【言語材料】
 ・ Hello. I'm [My name is] (Hinata).
 I like strawberries. I don't like lemons.
 ・ 果物・野菜, 飲食物, スポーツ, 動物, 色,



We Can1! Unit1 Hello, everyone. (5年生)

○中学年で慣れ親しんだ表現を使い、好きなものや欲しいものを伝えたりしながら自己紹介することができる。



本単元で目指す自己紹介例

○目的・場面・状況に応じて伝える内容を整理し、複数の事柄を関連付けて自己紹介することができる。

Hello. My name is Hinata. I like home economics. I am good at cooking. I can cook curry and rice. I sometimes cook dinner for my family. Thank you.

Unit1 This is me.

時	目標◆ 活動○	言語材料	◎評価規準 *支援
1	◆自己紹介をするための言い方を知る。 ○Small Talk: 自己紹介 ○トピックの内容理解: デジタル教材視聴 ○語彙の確認: 自己紹介の語彙(国名等)	I'm from~. I'm good at~. 国の名前	◎記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。 *本単元で扱う語句や表現を十分聞かせ慣れ親しませる。
2	◆出身地やできることを尋ねたり答えたりする言い方を知る。 ○表現の理解: デジタル教材 ○言語材料の練習: チャンツ等 ○学習表現の練習: スリーヒントクイズ ○p と b の文字	第1時までの表現 Where are you from? I'm from~. Can you run fast? Can you swim fast? Yes, I can. No, I can't.	◎I'm from~.の表現について理解している。 [知識・聞く] *表現をより理解させるために、事前に国名を表す単語を復習する。
3	◆出身地を尋ね合うことができる。 ○言語材料の練習: チャンツ ○学習表現の復習: スリーヒントクイズ ○自己表現: 動物当てクイズ ○自分の出身地を書く ○p と b の文字	第2時までの表現	◎I'm from~.の表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。 [技能・話すこと・やり取り]
4	◆得意なことを伝える言い方を知る。 ○表現の理解: デジタル教材 ○言語材料の練習: チャンツ ○学習表現の練習: チェーンリレー ○p と b の文字	第3時までの表現 ・ I'm good at~.	◎I'm good at~.の表現について理解している。 [知識・聞く] *本単元で扱う語句や表現を十分聞かせ慣れ親しませる。

5	<p>◆得意なことを伝え合う。</p> <p>○言語材料の練習：チャンツ</p> <p>○学習表現の復習：チェーンリレー</p> <p>○自己表現：得意なことを伝え合う</p> <p>○自分の得意なことを書く</p> <p>○p と b の文字</p>	第4時までの表現	<p>◎I'm good at～.の表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>[技能・話すこと・やり取り]</p> <p>*得意なことが思いつかない児童，英語表現がわからない児童に支援する。</p>
6	<p>◆スピーチメモを作る</p> <p>○伝える内容を考え，日本語でメモを作る。</p> <p>○スピーチ練習を行う。</p> <p>○iPad で撮影し，表現方法を見直す。</p>	第5時までの表現	<p>◎記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。</p> <p>*考えがもてない児童のためにいくつか例を示す。</p>
7 本時	<p>◆スピーチメモを修正する</p> <p>○よりよい自己紹介にするためのポイントを知る。</p> <p>○自己紹介メモを修正する。</p> <p>○スピーチ練習を行う。</p>	第6時までの表現	<p>◎よりよい自己紹介にするために改善点を見出し，内容を修正しながら活動しようとしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p>
8	<p>◆みんなが知らない自分の一面を紹介する。</p> <p>○ゴールの活動への理解：デジタル教材</p> <p>○言語材料の復習：チャンツ</p> <p>○自己紹介</p> <p>○音と文字の理解</p>	第7時までの表現	<p>◎伝えようとする内容を整理し，複数の事柄を関連付けて自己紹介している。</p> <p>(思考力，判断力，表現力等)</p>

・本単元では，書くことについては記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。

5 本時の学習

(1) 目標

よりよい自己紹介にするために改善点を見出し，内容を修正しながら活動しようする。

(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

学習活動 ◇予想される児童の反応	<p>・教師の関わり ○使用教材・教具</p> <p>◎具体的評価規準 (方法)</p> <p>教師の手立て</p>
<p>1 挨拶をする。</p> <p>2 自己紹介で用いる表現を復習する。</p> <p>3 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">自己紹介スピーチをレベルアップさせよう。</div> <p>4 自己紹介例を提示し，よりよい自己紹介に修正するためのポイントを考える。</p> <p>(例) Hello. My name is Hinata.</p> <p>①I'm from Hirosaki.</p> <p>②My birthday is October 20th.</p> <p>③I'm good at history.</p> <p>④I can play tennis.</p> <p>⑤I have tennis class on Saturday.</p> <p>⑥I like cats.</p> <p>⑦My favorite fruit is apples.</p>	<p>○デジタル教材：チャンツ</p> <p>・本時では，声の大きさ，速さなど，プレゼンテーションに必要な技能ではなく，表現内容のレベルアップを目指すことを確認する。</p> <p>・学級の仲間と ALT に自己紹介し，自分のことをより知ってもらおうという目的を確認する。</p> <p>・挨拶を除いて4～5文程度の自己紹介を目指すという目標を示す。</p>

⑧I want to go to Tokyo.

Thank you.

- ◇たくさん言っているけど、つながりがない。
- ◇学級の仲間を紹介するのであれば、弘前出身であることを言わなくてもいいかもしれない。
- ◇テニスのところは関係あることを話している。
- ◇国語の学習で相手を納得させるために複数の事例を出して説明すればよいことを学習した。

↓

- ◇自己紹介をレベルアップするためには、情報を補足して詳しくするとよい。

4 スピーチ例を修正し、レベルアップの具体的内容をイメージさせる。

- ◇①はいらないけど、出身地が弘前でなかったら言えればいいと思う。
- ◇③I'm good at history.の後に、好きな時代とか将軍とかを付け加えればよい。
- ◇④⑤はそのままでいいけど、好きな選手を付け加えると詳しくなる。
- ◇⑥I like cats.の後には、猫を飼っているとか、猫が欲しいとかを入れられる。
- ◇⑦My favorite fruit is apples.の後には、It's delicious とか味を入れたらよい。
- ◇⑧I want to go to Tokyo.の後に、It's great.とか感想を入れればよい。

↓

- ◇情報を補足する時には、自分の好みや気持ちを伝えたり、感想を付け加えたり、様子を説明したりするとよい。

5 グループで改善ポイントを考えてスピーチ練習を行う。

*修正のポイントが思い浮かばない場合には、日本語に置き換えて考えさせ話がまとまっていないことに気付かせる。

レベルアップの仕方について具体的にイメージさせる場面

・学級の仲間を知ってもらうことが目的であるため、ゆっくりはっきり話されれば分かる内容であること、できるだけ既習表現を用いることを確認する。

*具体例が出てこない場合には、1文ずつどのようなことを補足できるか確認していく。

・スピーチ例を修正したアイデアを一般化して確認する。

- ・3人グループで活動させる。英語の表現がわからないものは、ALTや教師に質問させる。
- ・スピーチ原稿を作り直すのではなくあるものに修正を加えることを確認する。

○ワークシート

レベルアップのポイントをもとに改善点を考え、自己紹介メモを修正する場面

◎よりよい自己紹介にするために改善点を見出し、内容を修正しながら活動しようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度
／行動観察・ワークシート)

<p>6 アイディアや課題を全体で共有する。</p> <p>◇サッカーが得意ということに，好きなチームを付け加えた。</p> <p>◇犬が好きということに，飼っている犬の名前を付け加えた。</p> <p>◇誕生日に，欲しいものを付け加えた。</p> <p>7 振り返りをする。</p> <p>8 挨拶をし，次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 修正前後の表現について，日本語で紹介させる。 目標を達成できたか，分かったこと，次回の発表に向けて意識したいことという観点で振り返りをさせる。 ○振り返りシート 次時の発表に活動に向けての意識付けを図る。
--	---

6 板書計画

Tuesday, June 14th.

自己紹介スピーチをレベルアップさせよう。

自己紹介例

レベルアップのポイント

↓

情報を補足してくわしくする

- 自分の好みや気持ちを伝える。
- 感想を伝える。
- 様子を説明する。

授業実践のまとめ

授業実施日：令和2年6月16日

1 提案事項について

(1) 提案1：レベルアップの仕方について具体的にイメージさせる場面

自己紹介スピーチレベルアップのポイントとして、複数の事柄を関連付けて話すことに意識を向けさせることを意図し、内容にまとまりがない自己紹介例を提示した。すると、児童から、「内容がバラバラだと言いたいことがわかりづらい」という意見が出され、「1つのことについて詳しく説明すればよい」ことを全体で確認することができた。しかし、自己紹介例のどの部分をどのように広げていけばよいか発言した児童は少なく、レベルアップの仕方について具体的にイメージさせるまでには至らなかった。この段階で、どのように修正していけばよいか具体例を数多く示し、修正前後のスピーチを比較してスピーチのレベルアップを実感させる必要があったと考える。

〈児童に提示した自己紹介例〉

Hello. My name is Hinata.

①I'm from Hirosaki.

②My birthday is October 20th.

③I'm good at history.

④I can play tennis.

⑤I have tennis class on Saturday.

⑥I like cats.

⑦My favorite fruit is apples.

⑧I want to go to Tokyo.

Thank you.

〈児童のワークシートから〉

- ・自分が挙げたことについて、理由や説明などを付け加えるとわかりやすくなることがわかった。
- ・たくさん言うと、伝わりにくくなることがわかった
- ・最初は短かったけど、1つのことについて詳しく書くことができた。
- ・レベルアップのポイントは深く伝えることだと思う。
- ・順序や内容を適切に考えることができた。

(2) 提案2：レベルアップのポイントをもとに改善点を考え、自己紹介メモを修正させる場面

児童の振り返りカードから、「1つのことについて詳しく説明すればよい」という修正のポイントを理解したことがうかがえた。しかし、実際に自分のスピーチメモを修正する段階で、どう修正すればよいのか迷っていた児童が多かった。上述したように、提案1において自己紹介例を用いて具体的にどう修正していけばよいか考えさせることで、児童が自身のスピーチメモにおいても修正する内容を焦点化するヒントとすることができたのではないかと考える。具体的には、提案1のレベルアップの仕方について具体的にイメージさせる場面において、修正する部分を例文全体ではなく、本単元のターゲットフレーズである I'm good at history. にしてもよかった。それにより、児童がどこを考えればよいか明確になり、複数の事柄を関連付けることに焦点を当てることができた。

〈児童のワークシートから〉

- ・メモを修正したけれど、具体的にどう言えばいいか難しかった。
- ・その英語が難しく相手に伝えられないことがあったので、もう少し簡単な英語に変えて相手に伝えられるようにしたい。

2 協議会から

- ・修正のポイントとして、内容面に焦点を当てることは意識されていた。
- ・自己紹介スピーチは、相手が知りたい内容か、自分が伝えたい内容か？
自分の意外な一面を知らせることが目的なので、相手のことを意識しつつ、自分が伝えたい内容が中心になる。
- ・活動のゴールの具体的なイメージは？
複数の事柄（3～4）を関連付けてメモを作成しているかどうか。
- ・修正ポイントはどのようなものを期待していたか、達成状況は？
1つの事柄に対してそれを補足する内容を付け加えることと不要なものを削除すること。削除は出てこなかった。ほとんどの児童は、2つ以上の事柄を関連付けてメモを作成することができていたが、目標は3～4だったので十分とは言えない。
- ・レベルアップ時のスピーチは日本語が多かった。英語で改善したスピーチを話しながら伝えていってはどうか？
みんなの知らない自分の一面を紹介することを目標にしていたので、最後の全体の発表まで内容は伏せておきたかった。また、内容に焦点を当てる時に、最初から英語ではハードルが高いと思ったので、まずは日本語でメモを作りそれを自分が英語に直せるかというところまで考えさせたかった。

3 単元で目指す児童の姿について

自分が伝えたい情報を相手にわかりやすく伝えようと工夫したり、相手の言いたいことを理解しようとしたりする児童を目指した。「わかりやすく伝える」には、発表の技能（声の大きさ、流暢さ、間の取り方、ジェスチャーや資料の活用など）、内容の2つの側面がある。また、外国語を用いて伝える場合には、既習表現の正しい使用という側面も加わる。「わかりやすく伝えようと工夫する」とは、上記の3つが児童の活動の中で意識され、実践されることである。しかし、児童は、はっきりした声ですらすら発音よく話すことだけに意識が向きがちである。そこで、本単元では、複数の事柄を関連付けてスピーチをすることを工夫と捉え、話す内容に焦点を当てた。

その結果、母語だけでなく外国語においても、わかりやすく伝えるためには、複数の内容を関連付けて内容を膨らませればよいことを意識させることができた。また、単元の最後に行われたスピーチでは、ほとんどの児童が2つ以上の事柄を関連付けてスピーチをすることができた。しかし、目標としていた3～4の事柄を関連付けるまでには至らなかった。そして、児童の振り返りカードには、やはり、スラスラ大きな声で言えるようになりたいという発表の技能に関する記述が多く、友達の発表の評価についても、内容より発表の技能に着目した記述が多かった。今後も引き続き3つの側面を意識して指導していく必要がある。

〈単元の目標を達成したスピーチ〉

修正前

Hello. My name is ～.

①My birthday is ～.

②I'm good at collecting stuffed frogs.

③I'm good at table tennis.

Thank you.

修正後

Hello. My name is ～.

①I like frogs.

②I don't like snakes.

③I'm good at collecting stuffed frogs.

④I'm good at table tennis.

⑤I want to go to a rice field.

Thank you.

4 成果と課題

成果は、話すことにおいて、児童の意識を技能面だけでなく内容面にも向けさせることができたことである。本実践を通して、児童は、相手により伝わりやすくなる工夫として、発表の技能だけでなく、理由や説明を加え、複数の事柄を関連付けて話すなど、発表の内容にも着目すればよいことを理解した。今後も、話すことにおける技能、内容、適切な英語使用の指導のバランスに配慮しながら、児童の力を総合的に高めていきたい。

課題は、自分の伝えたいことを自分の知っている表現に置き換える力の育成である。本実践でも、複数の事柄を関連付けてメモは作成したものの、自分が伝えたいことを簡単な表現に置き換えていく段階で多くのつまづきが見られた。その結果、単元最後のスピーチが難しい表現になり、自分が話すことも相手に伝えることも難しくなったケースが見られた。そのため、今後は以下の点に重点を置く。

- ・既習事項を常に想起させる手立てを工夫する。
- ・インプットした言葉をアウトプットさせる機会を増やして児童が使用できる語彙を増やす。
- ・1つの物事に対してイメージを膨らませ、いろいろな言葉で表現させる。